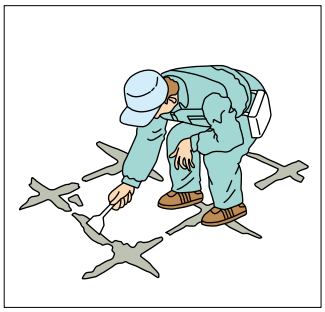
床貼り替えチェックポイント

床下地の種類と下地づくり工法

既存床を剥がして貼り替える工法

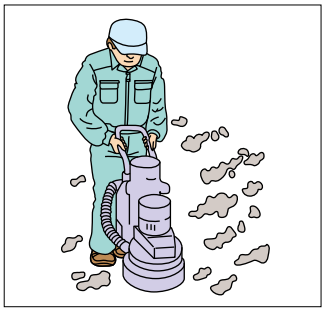
ビニル系床材仕上げの場合
（アスファルト系接着剤残存下地）

クシ山や部分的なタマリに注意し、ケレン作業で残っている接着剤を取り除くのがポイント。



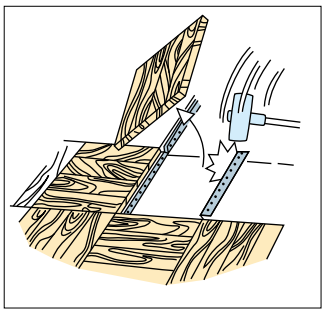
塗り床仕上げの場合
（ウレタン系）

下地に残っていると処理が大変難しいので、床研磨機を用いて完全に除去することが望ましい。



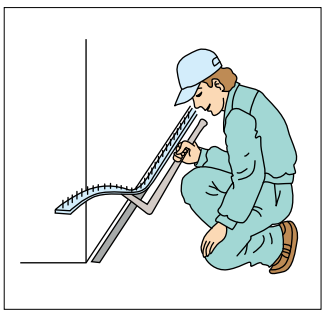
フローリング仕上げの場合

残ったフローリングブロックを撤去、留め金具も除去するか完全につぶし、平滑にする。接地床の場合は防湿層などの有無を確かめる。



カーペット仕上げの場合

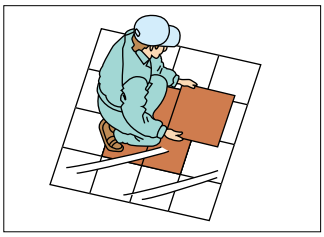
不要なグリッパーをバールなどで撤去。こわれた下地はフラッターで充填処理する。



既存床に重ね貼りをする工法

ビニル系床材を下地とする場合
（ビニル床タイル／シート）

施工に制約を受けないカーペットタイルを使用するのが、ポイント。既存の床の上にそのまま敷き込み可能。
ただし、浮上りや凹み跡・収縮・ふくれなどの欠陥がある場合には、同一材で補修し、硬ねりフラッターなどで充填処理する。

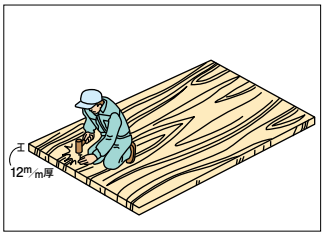


塗り床を下地とする場合
（セメント系）

部分的な浮き、欠落、クラックなどを、ケレン作業やフラッター、パテなどで完全に補修。

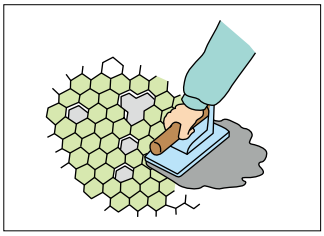
フローリングを下地とする場合

既存のフローリングの反り、継ぎ目などの影響を受けないよう、12mm以上の耐水合板を上から打ちつけ下地とする。ただし、下地に湿気がある場合は、適用できない。



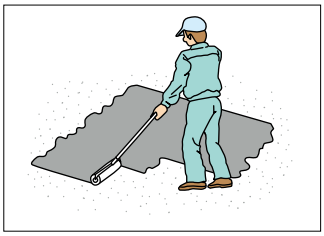
石材・セラミックタイルなどを下地とする場合

フラッターLCを打設し平滑にする。厚み等の関係で使用できない場合は、フラッタープライマーを塗布後、フラッター硬ねりを1～2回塗布することがポイント。
目地部分にフラッター硬ねりを塗布し、その後フラッター標準ねりを二回塗布する。



アスファルトモルタルを下地とする場合

浮きが部分的な場合は、電動ドリルで孔をあけ、グラウト材を注入。また、表面をワイヤーブラシなどで洗浄・荒しを行い、フラッターを全面塗布する。

古いコンクリート・モルタル下地の場合

下地の不陸が大きい場合は、フラッターLCで全面補修を行う。